

論 說

◎体腔ノ異物ニ就テ

水曜會ニ於テ 吉川 春次郎

先會三輪教授カラ刺創後ノ異物ニ就テ有益ナ御話ガアリ
マシタガ、其節御話ノ材料ノ一部トナリマシタ、本病院
ニ於テノ該問題ニ關スル統計的調査ヲ私ガ御依頼ヲ受ケ
マシテ、古イ頃カラノ帳簿ヲ引キ出シ、結果ノ二三ヲ表
ニ致シタノデアリマスガ、私ハ其序ニ總テ異物ト名ノ附
クモノヲ汎ク搜シ出シテ、刺創ニ關スルモノ、他ニモ、
表トシテ記シ得ル様ナ一ニモノヲ得マシタ故、別段變
ツタ事デアアリマヘヌガ此問題ノ下ニ少シク御話シ致サ
ウト思ヒマス。

單ニ異物ト云ヒマスト極メテ廣汎デアリマス、風ノアル
日外出シテ目ニ塵埃ヲ入レタノモノノ異物デアリマス、
鼻ノ中ニ蟲ヲ吸ヒ込メタノモノ異物デアリマス、食物ト共
ニ小石片ヲ嚥下シタノモノノ異物デアリマス、踏ミ貫キ
ヲシテ刺サツタモノガ組織中ニ殘留スルモノ、及盲管銃
創等ハ勿論ノコト、此等ハ何レモ外界ノ物体ガ身体中ニ

竄入シタノデアリマスガ、又自己身体中ニ出來テ異物ト
ナルモノモ有リマス、例之諸般ノ結石ハ之レデアリマス、
而シテ此身体自己ニ出來タ異物ハ其發生部位ニ止ルコト
モアリマスガ、又他ノ部ニ移行シテ其所ノ異物トナルコ
トモ有リマス、膀胱結石ガ流レテ尿道異物ヲナス如キ、
胆石ガ腸管ニ移行スル如キハ此例デアリマス、又遊離シ
タ骨盤骨ノ腐骨片カ骨盤腔ニ出ルトカ云フ例モ經驗セラ
レタコトデア又一ノ異物デアリマス。

斯ウ數ヘテ來マスルト身体ノ異物ト云フト極メテ多方面
デアンテ、其各種別ヲ云ヒ盡スコトハ決シテ容易デアリ
マセン、ソコデ私ハ此廣汎ナル範圍ヲ二分シヨウト思ヒ
マス、即チ一ハ組織内ニ侵入スルモノデ、他ノ一ハ自然
体空中ニ竄入スルモノデアリマス、前云フタ身体中ニ發
生スルモノハ勿論亦異物ニハ相違ナイガ、外界ヨリ來ル
モノト全然區別セラル、モノ故、之レハ先取リ除ケルノ
デアリマス、猶云ヒ替ユレバ、異物ヲ別ツテ外界ヨリ入
リ來ルモノト、身体内ニ發生スルモノトノ二トナシ、更
ニ前者ヲ別ツテ前云フタ二ツトスル、即チ外界ヨリ体腔
内ニ竄入スルモノ、及ヒ外界ヨリ來ツテ組織内ニ侵入ス
ルモノトノ二トスル、今私ハ此前者ニ就テ一言申上ゲヨ

第二表 年齢ト異物ノ部位

管 腔	年 齡	性 別		外 聽 道		消 化 管		鼻 腔	計
		男	女	左	右	刺入	嚥下		
小 石	十 歲 未 滿	男	女	三	二	一	一	一	二
		男	女	二	四	一	一	一	二
義 齒	十 一 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
米 麥 粒	十 二 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
不 明	十 三 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
其 他	十 四 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
計	十 五 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
計	十 六 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
計	十 七 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
計	十 八 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
計	十 九 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
計	二十 歲	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二
計	計	男	女	一	一	一	一	一	二
		男	女	一	一	一	一	一	二

(論 說) 体腔ノ異物ニ就テ

此表ノ他ニ全ク特別ナ各一回ノ場合ニ止ツテ居リマスル異物例カ六ツアリマス、何レモ多少ノ興味ガ認メラレマスル。

一、ハ二才ノ男子デアリマシテ、嚥下シタ蟹甲ノ一部ガ喉頭ニ侵入シ、其所ニ異物ヲナシ、著明ノ呼吸困難ヲ以テ參リマシタガ、初メ豫備的氣管切開術ヲ施シ、後喉頭ヲ開イキ異物ヲ抽出シマシテ全治シマシタ。

二、ハ五才ノ男子デアリマシテ、兩耳ニ豆ヲ入レテ來院シマシタ。

三、ハ四十才ノ女子デアリマス、耳下腺膿瘍ヲ治療ヲ行ヒマシタガ、治癒期ニナツデ中々瘻孔ガ閉鎖サレマセンデ、

終ニ唾液瘻ノ状態ニ陥リマシタガ、後若干日ノ後其所カラ小植物纖維様ノモノヲ出デ、後直ニ閉鎖シテ全治シタ

ト云フノチアリマシテ、コレハステノン氏管異物ヲ稀ナ例デアリマス。

四、ハ同窓鈴木重郎君ノ例テ、鼻腔ニ藥液ヲ塗用シテ居

ル間ニソレニ用井タ針金ヲ鼻腔カラ消化管ニ落シタ例デアリマス、之レハ間モナク少シノ障害モナク、糞便ト共

ニ排泄サレマシタ。

五、ハ先頃私ガ雜誌ニ報告シタ例デ、嚥下シタ帽針ガ尿

道ニ現ハレタモノデアリマス。

六ハ一 中學校ノ學生ノ外聽道カラ得タ紙塊デアリマシテ、之レハ私ガ身体検査ノ片見出シタモノデ、何時入レオカ忘レテ居タノテ考ヘサセテ見ルト、ソレハ曾テ發火演習ガアツタ時分ニ銃聲ノ響鳴ヲ弱メル様ニト入レタノデアルトノ話デアリマシタ。

今表ヲ見マシテ此表カラ得タ事柄ヲ舉ゲテ見マシヨウ、先第一ニ氣ノツクノハ体腔ガ定マツテ居ルコトデアリマス、即チ少數ノ鼻腔ノ場合ヲ除キマシテ他ハ皆外聽道ト消化管トデアリマス、別ニ表以外ノ七例中ステノン氏管ノ一例ト喉頭ノ一例トガアルニ過ギマセン、故ニ此表ニ從ツテ話シマスルト結極外聽道ト消化管トノ異物ノ話ヲ申シ上グルコトニナリマス。

表ニハ現ハシテ有リマセンガ此消化器異物ノ殆ンド總テハ口腔ヨリ進入シタモノデアリマシテ、只一例中年ノ男子テ強本魚骨ガ直腸壁ニ刺入サレマシテ手術シテ取ツタツカアリマス。

異物ノ物質ハ種々ナルモノガアリマシテ、表ニモ見ラル通リデアリマス、之レハ体腔ノ異ナルニ從ツテ異物モ異テ居ルマデス、例之耳ニハ豆ガ多ク、消化管ニハ魚骨ガ

多イ様ナモノデアリマス、猶後ニ少シク詳述シマス。年齢モ亦体腔ノ異ナルニ從ツテ違イマスガ、概シテ幼少ノ者ニ多イ、耳ノ異物ハ殆ンド常ニ小兒デ有リ、魚骨ヲ咽頭ニ刺スナドモ割合幼少ノ者ニ多ク有リマス。原因ハ遇然來ルコトガ多イデスガ、又戯レニ因ルコトガ屢々有ル耳ヤ鼻ニ豆ヲ入レルナド云フ例ハ殆ンド皆小兒ノ戯レデアリマス。

外聽道異物ハ体腔異物ノ多數ヲ占メテ居リマス、殆ンド小兒ニ限ツテ見ルモノデ、戯レニ異物ヲ送入スルノガ普通デアツテ、通常自ラスルノデアル故、年令ハ五六才カラ十才前後ニ最も多イデアリマス、大人ノ外聽道異物ハ小虫ガ飛ヒ込ムトカ、農夫デアアルナラバ作業中植物片ガハイルトカ云フコトニ由ルノデアリマス、左右ニ差ハナイヨウデ、表ニモ有ル通り男子ニ於テ遙ニ女子ヨリ多イ、コレハ男子ノ方ガ耳ニ豆ヲ入レルト云フ様ナイダズラガ多イニ由ルノデアリマス、外聽道ニ異物ガ入ツタ片ハ通例直チニ除去ヲ請ヒニ來ルモノデアアルガ、時トシテハ殊ニ幼稚ナ者デアルト、ソレヲ忘却シテシマイ後ニ耳ガ鳴ルトカ遠イトカテ來ルコトガ屢々有ル、從ツテ多クノ月日ノ後初メテ取り去ラル、事モ往々有ル。外聽道

異物ノ除去法ハ最モ簡便デ且ツ最モ能ク奏効スルノハ水壓ノ應用デアリマス、異物ガ少サクシテ外聽道トノ間隙ガ多イハハ、鉗子トカ錫子トカノ間ニ挿ムコトガ出來ルガ、之レ等ノ器械デ目的ヲ達スルコトハ寧ロ少ナク、反テ此等ノ處置ノ爲メニ異物ヲシテ漸々深入サセルコトニナリマス、殊ニ豆ナドハソレガ多クアリマス、本病院デハ殆ンド皆水壓デ目的ヲ達シテ居リマス、其方法ハ適當ナ「スポイト」デ外聽道ノ一側壁ニ向ツテ強ク水ヲ注グノデアリマシテ、此水ノ逆流ニ伴ツテ異物ガ出ルノデアリマス、ソマリ洗滌法ノ水壓ヲ強メタモノデアリマス、之レヲ行フ前ニソレヲ油ヲ點耳シテ置キマスト猶更ヨイヨウデアリマス、勿論此法ヲ行フニ當リテハ他ニ耳疾患ノ有無ヲ確ムルコトガ必要デアリマス。

消化管ノ異物ハ、管壁ニ刺サルモノト嚥下サル、モノトアリマシテ、此中管壁ニ刺サルモノノ多數ハ食品中ニ尖銳ナモノヲ含シテ場合デアリマシテ、最モ多イノハ魚骨デアリマス、通例ナレバ嚥下サレテ差支ナク消化サレテシマウ可キモノガ、何カノ工合ニテ口蓋弓ナリ扁排腺ナリニ刺入サレルノデ、之ハ實際上隨分濁山見ル事デアリマスガ、通例自己ニ被去スルトカ、自然ニ去ルトカニ

テ障害ヲ止メマセンカラ、爲メニ醫門ヲ叩ク様ナコトハ其全數ニ比較シテ見ルト甚ダ少數ニ上ルノデアリマス、咽頭附近ノ異物ヲ診査スルニハ指頭ヲ用井ルノガ最モ佳ヒ、咽頭異物ヲ診スルニ當ツテ注意ス可キコトハ、往々異物ハ既ニ去ラレシニモ係ハラズ、必然刺入シ留ル如ク自覺スルコトアル事實デアリマス、魚骨ノ他ニハ表ニ有リマスカ植物片ガ屢々異物ヲナシマス、又時トシテ外表皮膚ニ受クルヨリニ、口腔ニ竹片木片等ノ刺創ヲ被ツテ異物ヲ留メルコトガアリマス、七才ノ男ノ兒ガ篠ノ三四尺ノモノノ一端ヲ口ニ衝ヘテ居テ前ニ倒レ、咽頭後壁ニ刺入サレ其尖端一部分ガ異物トシテ遺殘サレタノヲ見タガアリマシタ、又之レハ表ヲ作ツタ後ノコトデアリマシガ朝竹柄横楊子ヲ衝ヘテ居テ轉例シ、此際左側ノ頬粘膜ヲ破リ刷毛部ノ大半ヲ頰部ニ刺シ直ニ被去シマシタガ、二三本ノ毛ヲ留メタノヲ見タコトガアリマス、嚥下スル異物ハ食品テナイモノデ一定ノ形ヲ有シテ居ル固形物ヲ嚥下シタモノヲ云フノデアリマシテ、魚骨ナドデハ可成大キクテモ胃ニ下レバ、ドーカコーカ消化シテシマウ、モシ消化サレナクトモ大抵ハ無事ニ下降スルモノデ、多クハ障害ヲ起サナイ、素ヨリ之レヲ異物トハ云ヒマセヌ、

表ニモ有リマスガ錢貨、鈕釦、義齒ナドハ即チ異物嚙下ト稱ヘラル、モノデアリマス異物嚙下ニ關シテハ只今余分ナ話ヲ致シマセン、只診斷上注意ヲ要スルト思フ一事ヲ御話申シテ此話ヲ止メマシヨウ、ソレハ他デアアリマセン患家ガ異物ヲ嚙下シマシタト訴ヘテ來タ時分ニ、直ニ之レヲ信用スル理ニハ行キマセン、勿論對手カ事理ヲ辨ズルニ足ル成人デアレバコンナツマラヌ疑問ニ出逢フコトハアリマセンガ、元々異物嚙下例之錢ヲ飲ミ込ムトカ、小サイ玩具ヲ飲ミ込ムトカ云フコトハ、何レ幼少ノ者ノ者ニアルノデアリマス故ニ患者自身ハ之レヲ明言スル力ヲ持タナイ、ソコゾ兩親ナリ兄弟ナリガ出來事ニ注意スルノデスガ、此等ノ保護者ガ往々自分ノ考慮ヒ若シクハ早飲ミ込ミテ、事實デモナイコトヲ此兒ガ錢ヲ飲ミ込ミマシタト云フ風ニ、事實目ノ前ニ見タカノ様ニ醫家ニ訴ヘ醫ヲシテ大ニ過ラシムルコトガ有リマス、コ一云フ場合ハ決シテ少數デナイヨウデアリマス、今著明ナ一ニノ例ヲ申シ上ゲマシヨウ。

或入ガ僅ニ歩行シ得ル位ノ乳兒ヲ伴レ來テ、只今一厘錢ヲ嚙下シマシタト訴ヘテ來マシタ、所ガ診査ニ當ツテ能ク聞イテ見ルトソレハ其嚙下ヲ目撃シタノデハナクシ

テ、確ニ其場所ニ存在シテ居タモノガ見エナクナツタ所、鼎章其所ニ獨リテ遊ンデ居タ子供ガ飲ミコンダノダロウト推測シテ早速連レテ來タノダトノ事デアリマシタ、其推測ノ當否ハ兎ニ角、隨分早合點十定メ方デアリマセンカ、他ノ一例ハ更ニ甚シイ小サイ小供ニ錢ヲ持タシテ買物ニ出シタガ、錢ヲ失ツタト云ツテ歸宅シタ、シマスト其親ハ之ハ小供ガ其錢ヲ飲ンダノデアルト云ツテ、早速病院ニ連レテ來タノデアリマス、之ハ一ニノ例デアリマスガ、此様ナ事實ハ嚙下異物ノミナラス刺創後異物ノ場合ナドニモ間々アリマスコトノヨウニ思ヒマスカラ、異物ニ就テ注意トシテ茲ニ一言致シテ置キマス。

◎空氣中ノ炭酸測定成績一束

陸軍三等藥劑官 月見辰辰五郎

余命ニヨリテ第〇〇〇管下ノ〇舍ニ就テ室内炭酸瓦斯ノ測定ニ從事シ茲ニ數十種ノ成績ヲ得タリ元ヨリ一室ニ就テ一容積ヲ採取シタルノミナレバ其平均ヲ算出シタルニ比シテ精確ナリト云フヲ得ザルモ左表ヲ作リタレバ敢テ高覽ヲ請フ事トナシヌ

仰炭酸ノ鬱積ハ其室ノ構造ト至大ノ關係ヲ有スル事勿論